

ラーニング・サポーター ♪ 5月のつぶやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWUラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

<5月のつぶやき♪INDEX>

p.1 水平線に向かって @K.W.(生活環境学専攻(被服)博士課程後期3年) 5月1日 tweet!

つぶやき1♪

水平線に向かって

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。そして、在学生の皆さんもご進級おめでとうございます。今年度がみなさんにとって素敵な1年になりますように！

今回は、先日行われた JWULC さくらオンラインミニ講座「ラーニング・サポーター座談会～大学院よもやま話～」に関連して、大学院についてお話したいと思えます。この座談会では、1週間のスケジュールや学内および学外での仕事、研究のモチベーションの保ち方など、大学院にまつわる様々な事柄について、ざっくばらんにお話しをしました。その中でもテーマにあがった「大学院に進学してよかったことは？」について、改めて考えてみました。

先日学部を卒業して就職をした友人と食事に行った際、友人が「最近、知的好奇心が満たされる瞬間が少ない。新しく知ること減って、それを得ようという気持ちあまり生まれなくなってきた。」という話をしてくれました。ほかの友人もそれに共感して、話は「何か習い事でもはじめようかな…」「転職したらもっと刺激があるのかも…」という方向に進んでいきました。一方の私は、この話に全くぴんと来ず、うまく話の波に乗れずにただ頷きながら、今当たり前のように自分が過ごしているこの生活がとてつもなく貴重なものであることに気が付いたのです。

院に進学して修士課程と博士課程をあわせて4年、私にとっては毎日が刺激的でした。授業の内容は学部時代よりさらに専門的になり、自身の研究もより深まっていく中で、知識の海の中を水平線に向かって泳いでいくような、苦しさや満足感が日々私の中にはあるのだと思います。大学院での生活は、自分の至らなさや弱い部分を自覚せざるを得ない事柄の連続で、苦しい瞬間も少なくはありません。しかし、それと同時に、自分が興味を持ったことをとことん突き詰める、見えないゴールに向かって手探りで進んでいくという行為は、研究とともに自身が成長しているという確かな手触りを感じさせてくれるのです。

「巨人の肩の上に立つ」という言葉があります。先人たちの知識や発見をもとに、高い視点から遠くを見渡すことで、より大きな成果を出すことができるという意味を持ち、数多の研究の積み重ねの上に自分がいることを実感する言葉です。水平線は高い位置から見ると、より遠くに見えるそうですが、その遠い、遠い水平線に向かって、今はただがむしゃらに、この手触りを楽しんで進んでいこうと思います。

人間生活学研究科 生活環境学専攻

自己紹介

博士課程後期3年 西洋服飾史
本学 家政学部 被服学科(学部)卒業
本学 家政学研究科 被服学専攻(修士課程)修了

研究対象

19世紀フランスの衣装を中心とする装いに関する研究

ひとこと

授業や課題、卒論に関することなど、大学生活の中で困ったことがあった際には、お気軽にご相談ください！

